

# かっこよく踊れたら、楽しい！（荒馬実践）

北河内ブロック 大西朱夏（枚方市立氷室小学校）

## はじめに

初めての荒馬ということもあり、「北河内ブロックで聞いてもらえればいいや～」と軽いノリで書いた実践報告が、あれよあれよと、大阪支部大会、全国大会まで報告することになり、正直ついていくのに必死でした。でも、全国の先生に聞いてもらえて、「もう一回、荒馬をしたい！」「民舞について学びたい！」と、今は思っています。

特に全国大会での報告では、民舞・舞踊教育の深い部分まで（ちょこっとだけですが）教えてもらえて、今後の民舞・舞踊教育について考えさせられることがありました。今後の実践に生かせることもたくさん学んだので、それも踏まえて報告します。

## 実践報告

### 1. 荒馬実践までの道

「荒馬」との出会いは、同志会の先輩方が「枚方に荒馬を広めたい！」と話しているのを聞いたときです。その後、ネットで調べてみると、むっちゃかっこいい！その時、民衆の願いや祈りが踊りに表現されていること、それが現代にも受け継がれていることを知りました。「南中ソーラン」で、一つひとつの動きに意味があることを学んでから、「民舞」の学習に興味を持っていた私は、その日から毎日のように動画を見たり、インターネットで調べたりするなど、どっぷり荒馬にはまってしまうました。

そして、4月の学年が決まった時から、3・4年生担任に「運動会で荒馬をやりたい！」と言い続けました。初めは、「もう運動会のこと?!」と驚いていた先生も、私のしつこさ

に根気負け。1学期終わりには「荒馬、やるんでしょ？」と快く承諾してくれました。

今回は初めての3・4年生混合のグループ学習で、「どうやってやっていこう…」と不安になることも多かったです。先輩の先生の学校へ突撃訪問したり、飲み会や電話で相談したりしてアドバイスをもらいました。また子どもたちの成長に勇気付けられ、他の先生の協力も得て、なんとかやり遂げることができました。

### 2. 学校と子どもたち

子どもたちは、男女間の仲が良く、素直でのびのび生活していますが、厳しい家庭環境の中で生活している児童も多くいます。本校は各学年2クラスずつの中規模校であるため、運動会の団体演技は二学年合同で取り組みます。低学年はダンス、中学年は南中ソーランと他の民舞を交互に、高学年で組立体操と、内容は決まっています。今回取り組んだ「荒馬」は、初めての試みでした。

3年生は支援在籍児童が多くおり、個々の能力差の大きい学年です。しかし、その児童に優しく声をかけたり、様子を見守ったりといった行動ができる児童も多いです。周りの子どもたちが受け入れているので、いつも温かい雰囲気かににじみ出ています。

4年生は、全体的に学力も高く、向上心にあふれ、困っている友達を見かけたら、声をかけて助けることのできる児童が多いです。しかし、一部の積極的な子の陰に隠れ、前に出ていこうとしない子どもの様子がずっと気になっていました。一人でもできてしまうからこそ、共にできる、共にわかる体験をして

こなかったのだろうなと思います。自分の学びを客観的にふり返ったり、友達の発言・動きから自分の学びを深めたりする経験をさせたいなと思っていました。

### 3. ねらい

先輩の先生の実践から学んだこと、「荒馬」を通して子どもたちに伝えたいこと、初めての異学年グループ学習であることを考慮に入れて、ねらいを考えました。

- ①動きを身につけるだけでなく、体を思いっきり動かす楽しさを感じさせたい。
- ②踊りを言語化することで、主体的に踊りを追求する体験をさせたい。
- ③友達と話し合い、協力することで、できるようになることを実感させたい。

「先生に言われたから。」「先生に教えてもらった通りに踊ればいい。」「なんとなく踊ったらできた。」と今まで受け身で取り組んできた子どもたち。そうではなく、「こうしたらいんじゃないか?」と、主体的に踊りについて考え、体の細かい所まで意識して取り組んでほしいと思いました。

また、4年生は前年度「南中ソーラン」に取り組み、民舞の動きは身につけていますが、3年生は民舞が初めてだったので、動きも基本的なことから教える必要がありました。そのため、3・4年生混合のグループ学習に取り組みました。

- ④子どもたちだけではなく、保護者・教師と共に作り上げることを実感させたい。

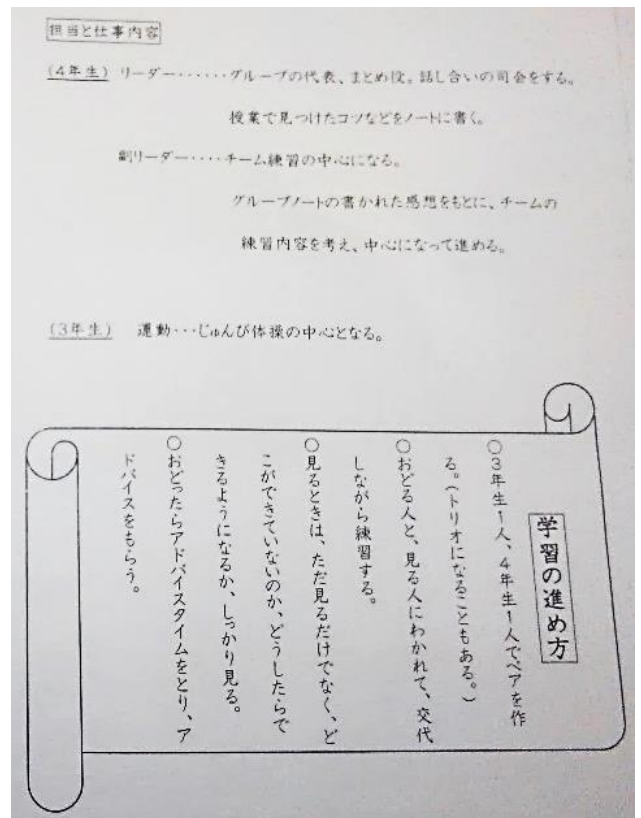
今回の実践で必ず取り組みたかったことが、「子どもと保護者と教師が共に作り上げる運動会」です。自分自身、今までの運動会は、保護者をお客さんにしていたなと感じていました。運動会で完成された演技をただ見てもらうのではなく、その過程で「馬作り」に関わってもらったり、「荒馬通信」を発行して、上手くなる過程を可視化したりすることで、子どもたちの成長を実感し、共に育てていると感じてほしいと思いました。

### 4. 単元計画（全 31 時間）・授業展開

運動会練習が始まる前に、過去に実践を行った先生から、授業展開について相談・助言をもらいました。初めが肝心なので、特に1週目について助言をもらいました。また、授業の流れは、在籍児童が多い事もあり、助言をもとに下記のように型を決めました。

- ①ラジオ体操
- ②感想交流・復習
- ③めあて・今日の学習の説明
- ④踊りのポイントを伝える
- ⑤グループ学習
- ⑥まとめのおどり・ふり返り
- ⑦整理体操（3年生中心で）

グループの役割分担は4年生をリーダー・副リーダー、3年生を整理体操・馬の保管と、明確にしました。さらに、学習の進め方（下記）を伝え、グループノートの裏表紙に記載し、すぐに確認できるようにしました。



- 踊る人と、見る人、交代しながら踊る。
- 見る人は問題点・改善点を考えて見る。
- 踊ったら、アドバイスをもらう。

日	時間	内容 (場所)
8/30	1	オリエンテーション 動画を見せる (各教室)
9/1	2・3	馬の顔作り (各教室)
9/2	4	手綱・馬作り (各教室)
9/4	5	教師の見本を見せる 歩み・かけ声 (中)
9/5	6・7	グループ学習スタート (中) 向きかえ
9/6	8	足出し・2つとび (中)
	放課後	保護者と馬作り (各教室)
9/7	9・10	すわり・4つとび (中)
9/8	11・ 12	馬の付け方・通し (中)
9/11	12	通し(向き合い) (中)
9/12	13・ 14	習熟 (中) (足出し・向きかえ)
9/13	15	並び方 (外)
9/14	16・ 17	習熟 (中) (2つ・4つとび・すわり)
9/15	18	ビデオ撮影 (外)
9/19	19・ 20	グループ円 (中) 習熟(2つとび・すわり)
9/20	21	二重円・決めポーズ (外)
9/21	22・ 23	退場・通し (外)
9/25	24	移動の確認 (外)
9/26	25	1・2年生に見せる (外)
	26	列チェック (中)
9/27	27	ペアの人と息を合わせて 列・目線チェック (中)
9/28	28・ 29	ペアの人と息を合わせて 踊る (中)
9/29	30	最後の通し (外)
10/1	31	本番

オリエンテーション(1～4時)では、荒馬の動画を見せて感想を書いてももらいました。どのクラスも「かっこいい!」「早く踊りたい!」

という感想が多かったのですが、「難しそう。」「できるのか不安です。」といった感想も見られました。感想をもとにグループ分けを行い、運動が苦手な児童も楽しく踊れるように配慮しました。また、土曜参観で保護者と一緒に荒馬を作ることで、さらにやる気が出て、「練習が楽しみ!」と言う児童が増えていきました。

練習開始の1週目(5～11時)は、教師主導での一斉指導で技を一つずつ教えていながら、少しずつペア練習やグループ練習を取り入れました。その中で大切にしたことは、踊りの意味を伝えたことです。民舞特有の動きを身につけるためには、「踏む」という動きが重要になります。流れずにメリハリのある踊りをするためには力をためて、その反動で次の一歩を踏み出すことが大切です。この動きを意識させるために、「地面の悪い神様、出てくるな!」などの踊りの意味を伝えながら意識させました。また、大きな声でかけ声をすることも意識させました。大きなかけ声だけで気持ちよさが感じられます。その上、かけ声に合わせて踊りを覚えられ、ペアやグループでの踊りもそろい、「息を合わせる楽しさ」を感じることができ、踊りを楽しむ様子が見られました。

2週目以降(12～29時)は、毎回グループ学習に取り組みました。今回の実践で、一番力を入れたところです。「なんとなく」で踊るのではなく、「指の先からつま先まで」自分の体について意識させるように声かけしました。自分の体の動かし方が理解できれば、同じ人間なのでアドバイスもしやすくなります。「このグループのアドバイスの仕方が上手!」「こうやって見せ合うと、ちゃんと見れるね。」など、上手に教え合いができていくグループを紹介していくと、次第にかけ声が増えていき、踊りの言語化も盛んになっていきました。

3週目(19～23時)は、実践で一番悩んだところです。実践18時間目にビデオ撮影をし、自分たちの踊りを客観的に見て課題を考えさせました。子どもたちの意見は、「動きが大き

くて、しっぽがゆれていてよかった。」「メリハリがあった。」「足をもうちょっと上げて、『ドシン!』とした方が良い。」「足と手をもっと大きく、すばやく動かしたらいい。」と踊りについての課題もちらほらみられる中、ほとんどのグループで書かれていた課題が「列がそろっていて、かっこよかった。」「列がバラバラなのが気になる。」と、列についてでした。個人的には、列はバラバラでも良いと考えていましたが、子どもたちの考えを大切に進めていきたい気持ちと、荒馬の表現を重視させたい自分の気持ちとの間で、どうしたものかと悩んでしまいました。

一緒に取り組んでいる先生にも相談したところ「子どもたちがそう言うのなら、列について習熟した方がいい。」と言われたので、子どもたちの考えをもとに「列チェック」を中心に練習しました。

**本番前の最終週(24~30時)**では、1組グループ・2組グループでの見せ合いを中心に、自分たちの踊りを客観的に見て、列をそろえることや、動きを大きく、かっこよくするためのグループ学習に取り組みました。「今日3・4年生で入場・退場をつなげて踊っていた時、私は全員が心を合わせたら、こんなにうまくできんねんな〜って思って感動しました。(4年)」というように一緒に作り上げていく喜びを感じられるような感想も増えていきました。

## 5. グループ学習で大切にしたこと

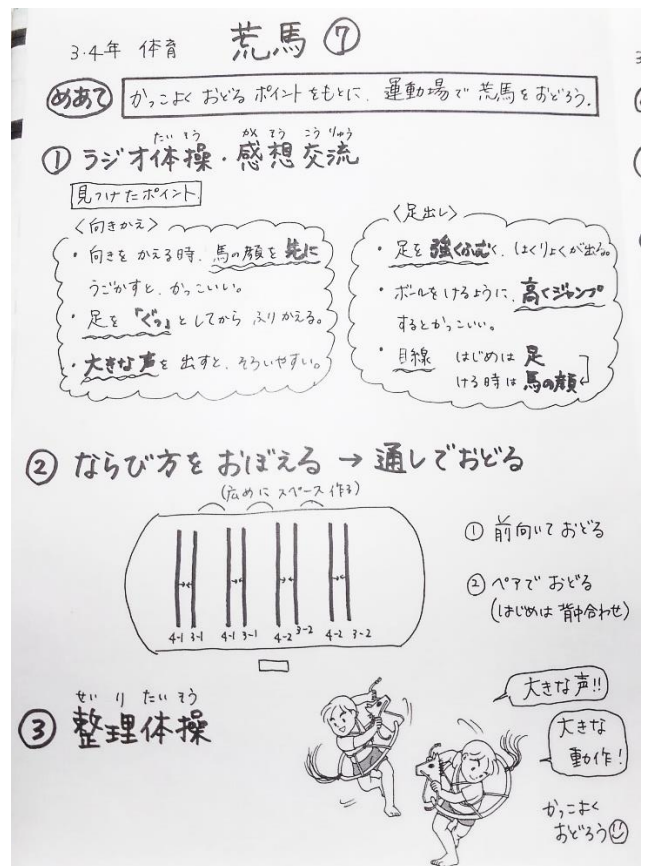
### ①感想を読み合うこと

ほとんど毎時間、「自分の踊りについて」と「グループの友達へ」の2つについて、ふり返しシートに書いてもらいました。

子ども同士のつながりを深めるため、一人で取り組むのではなく、グループで、クラスで、学年で取り組むという意識を持たせるために、毎時間の授業の始めにグループで読み合う時間を取りました。

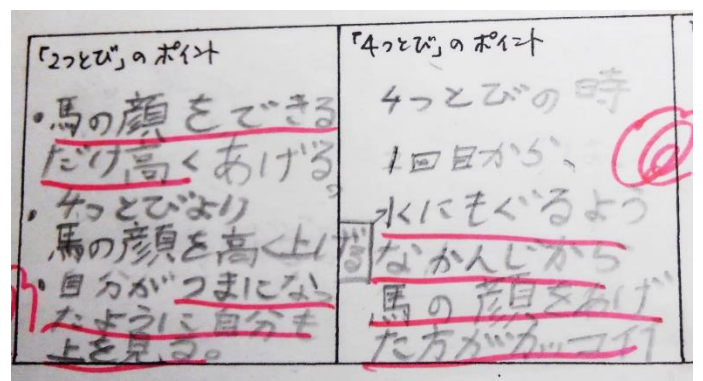
また、踊りの言語化を全体に広めるため、グループノートに載せて授業で紹介したり、

保護者へ伝えるために荒馬通信に載せたりしました。



### ②見るポイントを明確に

ただ踊りをチェックするためだけに行うのでは「なんとなく踊る」と同じだと思っていました。そのため、「目線」「手」「足」など見るポイントを明確にして、かっこよく踊るコツを見つけることを意識させました。また、アドバイスタimeを取るだけでなく、できるようになるまで一緒に踊ることを伝え、習熟の時間もしっかり作るようにしました。



## 6. 結果・考察・今後の実践に向けて

### ①踊りについての言語化

初めに基本的なことを教えた後は、こちらから技術を教えることをしないように心がけました。その結果、子どもたちにしか見つけられない表現で、踊りを言語化することができました。

**向きかえ**「急に止まれへんから、足を上げるねん。(4年)」「馬の顔を下げて、上に上げる勢いで回ると回りやすい。(4年)」と、一緒に踊る姿が見られました。

**足出し**「〇〇くん、足出しグループの中で一番上手だから自信もってね。足出しの時、手を下げる所、水にもぐってからパツとするみたいにするよ、うまくできるよ。(4年)」や左から右へと顔を動かす時に「水に潜るような感じ」で、「プハッと息を吐き出すように、顔を上げる」というように、動きを大きく見せるための言語化が見られました。

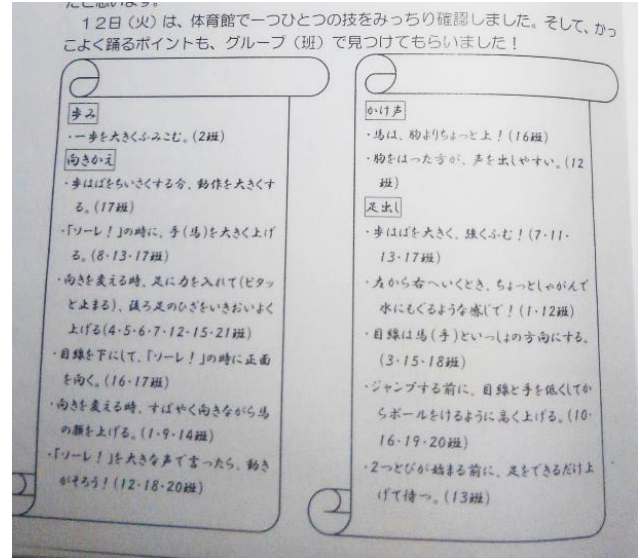
**2つとび**「手を後ろに引く勢いで下がる(4年)」「悪い神様出てくるな!の気持ちで、グッと足の裏に力を込めて跳ぶ(4年)」「ソール!のレ!で、後ろに引く(3年)」と、体の細かい所まで着目するような言語化が見られました。

**4つとび**「喜んでいから、上に跳ぶ(3年)」「ひざを高く上げて、上げた足を大きく前に出す(4年)」というように、踊りの意味とつなげての言語化が見られました。

**すわり**手の動かし方を「無限の記号を書くみたいにする。(3年)」や「三角みたいに馬を「かくっ」と動かしたらうまくできた。(3年)」や「カヌーをしているみたいにする。(4年)」などと身近なイメージしやすいことで言語化していました。



これらの言語化した言葉をグループノートや荒馬通信に載せて、全体に返すことによって、全体の踊りのレベルも上がったように感じます。また、言語化をすることによって、グループ内での話し合いや教え合いがさかんになり、踊りがグッと変わりました。



### ②学習集団の変化

グループ学習が進むにつれ、子どもたちの感想が「うまかった。」「パーフェクト!」と一言で終わっていたのが、「前よりもかっこよく踊れたら楽しい! (3年)」「教えて、3年生がかっこよくなっていくのが楽しい! (4年)」と変わってきました。また、4年生は自分たちの言語化によって、3年生の踊りが変わることがとても新鮮だったようで、4年生自身の踊りにも変化が見られ、全体の踊りの向上につながりました。もちろん、3年生の踊りを見て、上手な所を見つけることで、4年生がそれを取り入れることもありました。基本的には、4年生から3年生へ、踊りを教えるという形が多かったですが、お互いに支え合うという意識は子どもたち全員、しっかり持っていたと感じます。

また、体育以外での休み時間でも関わりが増え、朝礼台に待ち合わせをしてケイドロをしたり、廊下で合ったら手を振って声をかけたりと、関わりが増えました。運動会が終わった後は、4年生が中心になって休み時間に合同遊びをするなど、関わりは続きました。

さらに、3・4年生の担任は、運動会後のとび箱運動でグループ学習に取り組みました。教師にアンケートを取ったところ、「3年生は4年生のアドバイスを聞いて学び、とび箱のグループ学習に生かしていた。」や「前に立つのは嫌だけど、意見を持っている子が活躍できたからこそ、『自分たちで作上げた』自信を持つことができ、集団として変わっていったと思う。」と、子どもたちの学習集団に変化が生まれました。3年生のとび箱の授業では、「できる子が、できない子にアドバイスをすることで、子どもたち同士で伝わる言葉で動きを言語化していた。『机に手をついてみ。そんでな、机を引き寄せるねん。それを跳ぶときにしたらええねん』など。(3年生)」や「積極的にアドバイスする姿が増え、学び合いにつながった。『なんで、できひんねんやろ?』と友達の動きを分析し、アドバイスすることによって、コツを見つけたり、自分の跳び方の振り返りにもつながった。(3年生)」と、教わるだけでなく、主体的に学習に取り組もうとする姿が増えました。

## グループ学習

先週は、一つひとつの技を覚えていきました。なんと！先週で基本の技は全て覚え終わりました！すごい集中力でした！そして、一週間ずっとグループ学習をしてみても思ったのは、グループ学習がとても上手！ということです。

3年生は、4年生の話をよく聞いて、分からない動きを見て、「できるようにになりたい！」という気持ちが伝わってくるのが、とても良かったです！

4年生は、ちゃんとペアの3年生の動きを見て、「足はこうしたらいいよ。」と伝えてあげたり、一緒に動いて教えてあげたりしているのが、とても良かったです！グループノートの感想にも、少しずつ変化が見られるようになってきました。

初め

- ・「すわり」がむずかしかった。
- ・〇〇くんがうまかったです。
- ・パーフェクト！
- ・教えたらできるようになったのですごい！



金曜日

- ・大きな声を出しているのがいいよ！
- ・足が逆になっているので、そこをなおせばいいと思います。
- ・「4つとび」はリズムがある。
- ・キックの所をできるだけ足を上げました。
- ・しっかり馬の顔をふると、かっこよくできる。
- ・かっこよくおどるには、大きな動作、声、動きをそろえることだと思う。



### ③列をそろえることについて

実践の19時間目、踊りも習熟できてきたころ、子どもたちに課題をたずねたところ、「列がバラバラになっているのが気になる。」という声がたくさん出ました。個人的には、列は気にしていませんでしたが、子どもたち

の考えを大切にしたいと思い、最終週は列をそろえることを重点に練習しました。その結果、列は揃ってきましたが、反対に踊りは小さくなっていき、迫力が奪われてしまったように見えました。

結果から考えられることは、3つあります。

1つ目は、「**表現を楽しむことを中心に授業を組み立てること**」です。学習指導要領の中学年の表現運動では、身近な生活の中から題材を選んでその特徴をとらえて表現し、表現することの楽しさを味わうことに重点が置かれています。荒馬の楽しさは、ただ踊るだけでなく、ペアの人とかけ声や視線で息を合わせて踊ることにあります。毎時間「向きかえで、目が合うとうれしいよね。」「かけ声がぴったり合うと、気持ちいいね。」「息を合わせるためには、どうしたらいい？」などの声かけをすることが大切だと思います。

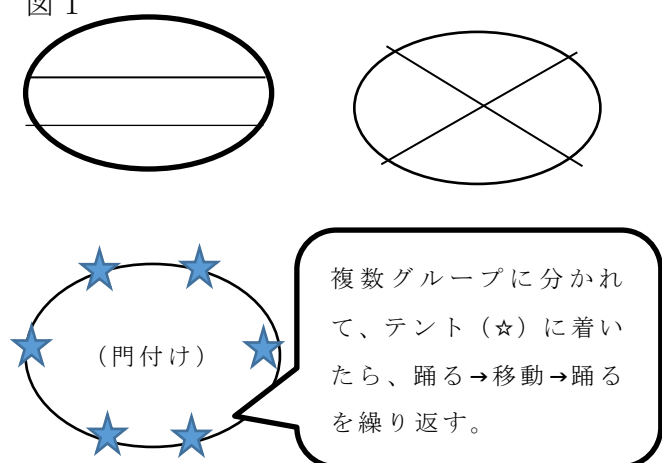
2つ目は「**ビデオを見る視点を踊り(表現)にすること**」です。全体のみを映したため、自然と「列」に意識が向いてしまいました。撮影する場合は、全体だけでなく個々の踊りも映るように工夫し、ビデオを見せる際に「ペアで目線があっているか」や「馬の力強さが感じられるか」のように、踊り(表現)に着目する声かけが必要だと思います。

3つ目は、「**隊形を工夫する**」ことです。隊形が基本的に「列」になっていたことも「列」に意識が向く原因でした。また、今までの運動会練習(表現活動だけでなく、入場行進など)では、列をそろえることを重視してきたため、それが子どもたちの表現に対する重要な視点だったようです。遠くから見てズレが気にならないように、横や斜めに並ぶ、円にする、トラックに並ぶ(図1)など工夫が必要でした。そうすれば、踊りの表現の工夫にのめり込むことができたと思います。

全国大会では、今別の荒馬にある「門付け」を取り入れると良いと意見を頂きました。「門付け」とは、「人家の門の前に立って行う芸能」であり、今別町では荒馬踊りの3~4日間、団体ごとに地区を割り当て、「およそ2時間

かけてムラ内を練り歩く。人家から花(祝儀)があがると鐘をならし、囃子の曲調が変わって荒馬と太刀振りを踊ります。(今別町ホームページより)。「門付け」を入れることで、列を気にすることなく踊りに集中でき、荒馬の歴史も一緒に学ぶことができます。次の実践では取り入れたいなと思いました。

図 1



また、実践後に教師にアンケートを取ったところ、「(初めは)列をそろえることも、運動会で学ぶことだと思っていた。」と、教師側の意識も列にあったことがわかりました。しかし、「荒馬の本質でないなら気にしない。」や「荒馬にのめり込むことで、列なんていいや!となれば良かった。」というように、実践後には考えの変化が見られました。一方で、「そろったらキレイと、大きな動きのどちらを取るかによるのではないか。それは見る人にもよると思う。」という意見もあり、教師が「表現運動が見る人のためにあるのではなく、子どもたちのものである。」という意識が薄かったように感じます。「運動会は誰のために行われるのか」を、学校全体で考えていかないといけないと感じました。

#### ④保護者の感想

「運動会前から、練習の様子を学級通信で伝えてもらっていたので、とても楽しみに待っていました。本番では、みんなが真剣に頑張ってきたのがよく伝わってくる息ぴったりの迫力のある荒馬になっていました。見てい

てうれしい気持ちでいっぱいになりました。」

「曲もない中、先生の太鼓だけで、あそこまで踊れていることに感動しました。ただ先生が踊りを伝えるだけでなく、グループで話し合い、協力し、取り組むということはとても大切なことなので、『荒馬』を通して、子どもたちが得たものは、これからの学習に生かされると思います。」

「衣装作りから、お母さんたちの愛情をもらい、運動会でそれを受けて子どもたちも一生懸命踊っていた姿に感銘致しました。」

「先生のリコーダーや太鼓も素晴らしかったです。普段あまり使わないような筋肉をたくさん使い、『肩が痛い、足が痛い』と家では言っていたのですが、今になり、それだけ真剣に毎日取り組んでいたんだなと実感しています。いつか本場の今別町の荒馬を子どもと見に行きたいなと思いました。」

「みんなで、どのようにしたらかっこ良く見えるのかをグループで出し合っただけあって、足を上げる、声を出す等、本当に細かい所まで行き届いている内容だったと思います。とてもステキでした。」

保護者と一緒に馬づくりに取り組んだり、荒馬通信で練習内容を伝えたりしていたことで、ただ完成されたものを見るのではなく、練習過程を想像しながら本番を見て感動されたのではないかと思います。教師と子どもと保護者の三者で一緒に取り組めたことは、自分にとっても、保護者にとっても良い経験になったと感じます。また、荒馬を初めて知った保護者がほとんどで、保護者に「荒馬」という踊りがあることを伝えることができたのも良かったと感じます。



## 7. 「荒馬」の教材化について

### ①年間を通した指導計画

大阪支部大会や全国大会で、いろいろな人の実践を聞く中で、自分は運動会のためだけに実践していて、そのことに何も疑問を感じなかったことに気がつき、ハッとさせられました。特に幼年の実践では、4月から3月までじっくり丁寧に取り組んでいて、子どもたちが自ら考えて踊ったり、踊り自体を楽しんだりしているのが感じられました。

そこで小学校でも、体育や総合・生活の時間を使って、1学期から荒馬について少しずつ学んでいくと、さらに深い学びにつながると思います。たとえば、総合で「荒馬踊りの歴史」について調べ学習をすると、踊りの動きだけでなく、荒馬の持つ文化や民衆の願いに気づくことができ、荒馬の魅力をさらに感じることに繋がります。先程述べた、隊形についても、「門付け」を取り入れよう！という発想を引き出すことにもなると思います。さらに、今別の荒馬まつりは毎年8月初旬に行われており、児童の中には「まつりを見に行きたい！」と考え、実行するかもしれません。(教師が実際に見に行くことも大切です。) また、図工で馬づくりを1学期からじっくり取り組むことで、自分の馬に愛着がわくだけでなく、作った馬を使いこなす、馬になりきることができます。

このように、1学期から計画的に学習に取り組むことで、「荒馬で学ぶこと」の幅が広がるのではないかと思います。また、最終発表を運動会にするのではなく、運動会は中間発表、集大成の発表を最後の授業参観にすると、年間を通してじっくり荒馬に取り組むことができます。

### ②踏むこと

荒馬踊りの名前に「2つとび」「4つとび」とありますが、実際には「とぶ」ではなく、「踏む」ことです。今回の実践では、子どもたちが動作の名前に引っ張られて跳んでしまうことが反省点でした。沼倉先生は「踊

りの目的から考えると、今まで『2つとび』と呼んでいた部分は『一つ踏み』であり、『4つとび』は『3つ踏み』である。」(2011.全国大会舞踏表現分科会.研究報告)と報告されています。ただ呼び方が変わっただけかもしれませんが、「一つ踏み」「三つ踏み」というだけで、踊りのイメージがわいてくると思います。児童に動作の名前からどのような動きなのかを考えさせていくと、「踏む」ことを意識した身体技法を身につけさせることにつながると思います。

また、「踏む」といふ身体技法は「重心を上下に振り、体の重さで地面を踏み、その反動を生かして次の踏みの動作へつなげる動き」です。これは日常生活ではなかなか経験しない動作です。それを学ぶことが荒馬踊りを学ぶ醍醐味でもあるのですが、この動作を獲得するための手立てを考えることの大切さも今回の実践で考えさせられました。幼年の実践では、5月からなわとびを使った荒馬遊びやケンケンパに取り組み、それを荒馬の踊りへつなげて指導していました。他にも、けん玉やトランポリンは「踏む」動作につながる動作があります。1学期から取り組むことで、荒馬踊りを学ぶ際にスムーズに「踏む」を意識した踊りになると思います。

### おわりに

初めての実践報告でしたが、たくさんの反省点と共に、改善点・学びがたくさんあり、もっと学びたい！荒馬について知りたい！という意欲が出てきました。実践前も、実践中も、実践後も、たくさんの同志会の先輩方に助けていただき、今後に繋がるアドバイス・優しいお言葉をいただき、本当にうれしかったです。実践は一人でするには限界があるけど、先輩方や仲間がいるからこそ、「やろう！」「次はこうしよう！」と前向きに取り組めます。これからは食欲に学んでいこうと思います。あ～早く荒馬がしたい！！